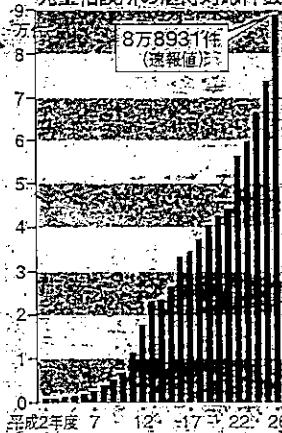


兒童虐待 8 万件突破

24年連続増、前年度比
20.5%
↑



年度に対応した児童虐待の件数(速報値)は前年度比20.5%増の8万8,971件、3.5件で過去最多を更新したことから、8日、厚生労働省のまことに分かって調査を開始した。2年度から24年連続で増加を続けており、初めて8万件を超えた。

厚生省は「虐待そのものが増えている」とに加え、社会的意識の高まりで通告や相談が増えた結果だと分析。25年8月²⁵被害児童のきょうだいも心理的虐待を受けたとのえ、対応を自治体に通知したことや、子供の前で配偶者や親族らに暴力を見る「面罰DV」に関する警察からの通告増加も影響したとみてくる。

調査では全国200万件の児相に寄せられた通報の相談のうち、児相が虐待の疑いが強いと判断し、親へ

会は8日、25年度の児童虐待死亡事例の検証結果を公表した。心中以外で虐待死した児童は前年度より15人少ない36人で、0歳児が最多の16人(44.4%)だった。0・2歳は24人で、全体の7割近くを占めた。

虐待の内訳は身体的虐待が21人(58.3%)が食べ物を与えないなどの看守放棄(ネグレクト)が9人(25.0%)。主な加害者は母親が16人で最も多かった。

親権停止
申立て
23件

虐待から子供を守るために、親権を最長2年間停止できる制度に基づき、児童相談所長が平成26年度で親権停止を家庭裁判所に申し立てたケースは15件、治体で23件あった。このうち今年3月までに親権停止が認められたのは17件だった。

親子種痘上田じいさん

児相連携へ 警察道半ば 病院

早期把握△情報共有急務

対応件数が4,000件と政、・対応件数の増加は、虐待へ
令市で最多だった大阪市の児、の社会的関心の高まりとともに
相「H」との相談センター」職、「に、警察監査課からの通告の増
員せりの話す。セントラルでは、加が背景にある。虐待の疑い、隠匿の
3歳じよ歳の娘のたにが餓、があるとして、28年に全国の「訴えを

提供し、共同有を義務付
けた。児童工が所持た
ずの増やしても、児童
条件を抱え込んでは
問題は変わらぬ」と

虐待対応専門の担当課を設け、2万8,923人（前年比33%増）配置。児童福祉司112人が宿直（9%増）と過去最多。今年4月からするなど24時間態勢を積極的。月時点で現職警察官や警察O（40）は、な取り組みを行う。それでも、B計176人が児相に配置された。児相（厚生労働省が指針を定めたものなど）、児相と警察専門の意見を参考。協働が生まれつつある。たゞ48時間以内の安全確認に、通告の方法などにあたっては、いつなじみの場合である】（担当課）「それでも警察O（40）で弁護士にあたっては、状況によっては児童に生命と健康がある。」

者の立場からいぢ重尾行組む医師もいる。前橋病院の構図は史劇医師虐待の早期発見につ医師の研修プログラム基本知識や児相公の遺産を説き、初期対応の医師から虐待専門医のネットワーク構築を、「医師が児相に通告され、他の患者がその医師を敬遠すると考える